

磐城大衆新聞

毎月二回 一日十五日發行
 定價 一部十錢
 廣告料 一行五十錢
 場所指定十錢増
 編輯人 長谷川兵衛
 印刷所 磐城大衆新聞社
 發行所 磐城大衆新聞社

石城郡選手の榮譽

北日本選手権大會に於て

去る九月廿二日、廿三日の
 兩日仙臺市第二師團向ヶ岡
 練兵場に於て開催せる北日
 本射撃選手大會は頗る盛況
 を極めた、因に選手十名の
 内選拔せしのは本部出身者
 より四名を得たる事は大に
 誇稱するに足る名譽である
 因に眞選手諸氏を中心とし
 て組織されたる平獵友會が
 ある

射撃會の名譽である選手は
 平町 渡邊 貫一
 内郷村 馬目 太平 治
 同 佐藤 留三
 同 杉山 今朝吉

尙は是れ諸氏の人物短稱を
 列記すれば左の如きである
 △渡邊貫一氏は平町一丁目
 平碗火藥店主で前平町會
 議員として大に町政に參
 與し、平三萬町民の味方
 として活躍されたる事は
 周知の如きである
 △馬目太平治氏は人も知る
 如く宮の銘酒醸造家で近
 盛の若旦那である、警中
 出身の俊才尙未だ若く
 前途頗る斯界より注目さ
 れて會て謂はれなきのみならず
 業者の群は都鄙に充滿して

緊縮の徹底を論ず

高橋 靜堂

國難來 國難來 今や我國す、却て人心を疑惑し迷惑
 は何れの方面より觀るも國せしむるの外國家治道の上
 難の襲撃に直面するに至つたには何物も寄與すべきもの
 同 杉山今朝吉
 同 茲に於て乎現内閣は緊でない、
 縮政策を唱導して先づ以て 如何に國運は發展して文化
 財政を立直しに着手し而して 如何に國運は發展して文化
 財政策を唱導して先づ以て 如何に國運は發展して文化
 縮政策を唱導して先づ以て 如何に國運は發展して文化
 財政策を唱導して先づ以て 如何に國運は發展して文化

水産學校なくば

縣下漁業は自滅

石城郡の當業者が

縣下の漁業家が漸次他府縣漁業組合が結束し縣下に縣
 の漁業に壓倒される傾向に立水産學校を設立される様
 なつたのは水産に關する教養運動を起すべく日下準備
 育が欠けて居る爲め是れ中で縣が財政緊縮を楯に承
 を放任すれば縣下の漁業は認しなれば財界安定後
 近き將來に自滅するの秋立に移管する條件を付け組
 が必然的に到來すると石城合立として設立せんと意氣
 部水産組合が主催となりて 込んで居る
 江名、小名濱、豊間間の各

大衆片々

▲中央政界の一衝動は田中
 政友會總裁の逝去と俱に
 多少あるならんと思へし
 に、木堂丈養に依つて辭
 録す
 ▲一政友會をして革新俱樂部
 部強小の頭數に轉化する
 勿れである

非常の時は非常の斷な
 るべからず而して非常の斷
 は非常の人を待たざるを得
 ないが、現内閣果して非常
 の人なるか、我等は敢て問
 ふとを爲ない、何んとなれ
 ば上下心を一にして難患に
 當りさへすれば此心測ち其
 人となるからである、要は
 蝸角頭上、接觸は能事と
 國難來は決して閑人日常の
 談話ではない官民一致協力
 同心して事茲に當るでなけ
 れば國家國民の前途は實に
 測り知るべしだ、(十月十日)

▲他人の繁榮と隆盛を羨み
 て種々なる卑劣なる行爲
 を以てする人多し
 ▲本紙は常に 一黨一派に
 組せず徒らに黄金萬能の
 金權の門下に降伏する如
 き不甲斐なきもの非ず
 ▲社界の眞の木鐸として正
 は正邪は邪に忠實なる報
 導を以て使命とする也
 ▲新聞は則ち社會の公器に
 して決して一カライイ團
 の獨占物に非ざるなり
 ▲新聞の使命 並に其權威
 は絶對的なるものなり
 ▲然るに此の使命に存す
 るを忘れたるか故意か同
 業の欠點を商取引行爲と
 して醜態卑劣なる事を敢
 行せる愚人ありたりと
 ▲新聞業者も事茲に到るに
 は實に嘆聲は洩ざるを得
 す神よ 玉石混合して同
 視する勿れだ
 ▲縣下の東海岸の各地漁業
 逐年不振は豈何舊數的
 となる 文明の發達に前
 行とは限りなき悲みに非
 ずや
 ▲資金の充實と活動の眞諦
 に徹するの憾みあるなら
 んか
 ▲如何に緊縮政策にせよ政
 府は是れ漁業家に低利資
 金を融通して救済の道を
 講ずる策を知ざるか
 ▲技術未知の反動とせば水
 産學校を設立し以て大に
 斯界の向上達成に努力せ
 られよ
 ▲行詰れる現下に彼の大西
 郷の如き偉人の現出を要
 望す
 ▲那南錦村消防組頭に山崎
 登氏就任せりと組員諸氏
 よ此の若き山崎氏を援け
 よ
 ▲問題の植田商市場遂に没
 落の悲鳴を擧ぐ再生の途
 は發見せざるか
 ▲集團事業の向上せざるの
 原因は那邊あり哉事業と
 政治とは別種に取扱を區
 分すべき性質なり
 ▲事業の裏面に金權屋の介
 存は産業發達の寄生虫な
 らんか
 ▲勿來養鶏組合の發達と事
 業の効果とは既に全國的
 ならんとす
 ▲其榮共存の大精神を以て
 白熱的活動の賜物は遂
 に賞讃の因となるなり
 ▲汝の困難艱苦は成功の玉
 となるなりとは彼の安田
 翁の眞言なり
 ▲所謂成功の裏面に苦闘艱
 難あるもの知れ
 ▲某銀行の支配人 田町一
 流の迷妓に溺して數千
 金を投じて落籍するとか
 せぬとかで一騒動
 ▲果して事實とせば私財を
 提供し零細より成る貯金
 の一部分でも拂戻斷行に
 其勇氣を示せ
 ▲弱きものよ汝の名は女な
 し之れの主なるものは住宅
 同儕は内省靜考するの價
 値あるものに非ざるか程
 人の〇を△△して自己一
 身のみ榮華を貪り度き
 の低脳兒ならんか
 ▲某官吏職權を亂用して〇

宅地が殖へた

平町のぼう張

平町では九月一日現在で農
 業調査を行つたが其結果に
 依ると前年度に比較すると
 水田百十五町八反五畝三歩
 が百一町八反六畝六歩とな
 り十四町四反二十歩減少
 を見亦た畑は七十三町二反
 八畝二十二歩が五十六町一
 畝二十四歩に則ち十七町二
 反六畝二十八歩の減少で水
 田と畑とを合併して計算し
 て見ると昨年度より三十一
 町三反一畝二十五歩の減少
 之れの主なるものは住宅
 の地に變更してゐる、所謂、
 平町の最近が如何に發展を
 物語つて居るかを證明され
 る

募集

文藝其他投稿
を募集します

自動車の事故の頻出 一層の取締を希望す

文明利器の發達乎最近半警目を命せられた、何んと無
察署管内に於ける乗合、貨物せしものに非ずか彼の外
物、自家用自動車等の非常勤巡査が定員以上の處へ車
なる數を以て其増加を示し外乗りて市内を進行せしめ
て居る

所謂 同業者の過多は自然行して完全なる取締の責
に競争となり、其競争が責任者が犯罪構成を助成して
に深刻化して、近來は通行所と云つても差支ない、
人荷車馬等の迷惑をも何の或る警部補の如きは正服自
そので横暴なる速度を以て己の愛する藝妓と同伴で無
運轉され、店頭に座せる人料乗車で出勤した事實も吾
々にも降雨日には泥の洗禮人は驚見して居る

を受ける事がある、平取締を厳格に施行せんと欲
署に向つて其取締の嚴重且せば先づ是れの人々の私行
つ違反行為に重大なる處罰を改善し然る故に自動車
し彼れを處分反省を促さん業者並に運轉手諸氏を取締
事を希望するものである、を爲し多くの人民等の通行
一面から論せば半署は何故受難より救つては如何であ
に是れを法規の命する處に在る徒らに聲のみ大にして其
法規の施行をせぬかと非難 奮闘の擧ざるは吾人に大に
さるゝも偶然ではない最近遺憾の極みとすると共に當
其取締に依つて多少の處分局者に更に警告を與ふるも
を受けた事件の内に定員以ののである

戀は悲しく金はなし

年増女の大悲劇

人生の幸福は眞生の戀と 幾多の艶聞は近隣の若か
眞純なる愛によりて活ける 男女間の話題に上り誰れ
ものなりか 知らぬ人もなく未亡人の貞
處は平町材木町の善しや露 操観も今は悲しく若かき燕
月事鈴木花代と云ふ未亡人を求めて更生の戀に生るの
あり、愛せし夫は二年の昔嬉れしよ
黄泉に旅たれ空潤の淋し 若かき燕とは如何なる醉人
さ一方ならず秋雨泣々と降か、平町某丁目横通り或る
る晩秋の夜も一人寝は悲し 愚鈍屋の旦那平さんと申す
きか 三十啼々の昭和業平か佐野

次郎左衛門の如き醜男に非段方法を熟議す結果夫婦協
す先づ虎穴に入らずんば虎力に依つて是れを搾取せん
兒を得ずとの諺の如く花代事に決す
未亡人の穴居に入たるは數花代未亡人好いた中さんの
回、性の美妙亦た茲に至り要求無理ならずと〇〇掃除
て女性の悲しさ戀は恨みて 料の支拂ふ事、に莫大、と
今は仇なれかし好評ある半なり今や破産の状態と商賣
旦那、時は來れり虎兒を待の御壽しが、壽しになりそ
んとするに色と慾と二途を うなのも知らず戀の半さん
兼用して花代未亡人に憫々 若かき燕に振替るは振替るは
たる物質の要求する頻りて 呼鳴棒の力は無限である
ある、亡夫の愛兒を完全に 此の未亡人の迷ひの夢は何
成育せしむる義理は、戀の 處の土地で醒るやら
史生に殺されて、三十五 夫婦協力の新發見の色男の
と云ふ少額より數百金を若 賣特許も如何程度の進展す
き燕に恵み與ふ、平旦那、 るか更に筆を更めて特筆大
遂に智謀の策が切れ家の 噴書の時を待たんとす(完)
と茲に平和會議を開きて手

古川傳一氏令夫人

問題に關して

長谷川 紫水

襲に本紙が郡出各縣議令に轉住した一魚屋の主人か
人の訪問の印象と題して三ら得たものである、
西の令夫人の態度を率直に 無理にも古川令夫人の生家
筆を探りたるに古川傳一氏 鹿志龜事二代目鹿志村
令夫人の過去の材料云々に 龜吉氏の一家、秘密史罪惡
對して郡南巷間は郡南出身 偏に全紙面を提供して呉れ
にして平町在住某有力者よ と云ふから無釋仰山の材料
り出たるものなりと斷定せ 記者は持つて居るだが本
し由に記者は同氏に對し頗 紙は最初より古川縣議一黨
る御迷惑の毒の感に堪ずと 挑戦する意志は毛頭もな
茲に同氏の爲め釋明して置 いかから堅く御斷りを申上げ
て置く、
然し天下の新聞が其材料 禮を失した所があれば御詮
を何處から出た、出ぬなど び致して置きます、
で赤い面を青くして怒つて 唯々印象の一部分を採記し
居る人々が愚かなるものと たるに過ぎたのであつた
思ふ新聞紙の使命に權威と 以上令夫人問題の論明する
を保有して居る古川氏の 如事仍如件

紅燈の巷より

自分に惚れして居る藝 師の事が善く出て居ると君の
處の田町便りは實に素的だ
よ、賞讃して呉れる反對に
熱くでもある天變な御立腹
遊さる馬鹿旦那や醉人も御
座る。然し記者は流石の
燈記事や、虫の好かぬべ
ナチコ或るはオソコチの
スペターなどを罵倒もせぬ
素より商品の取引行為と存
じて居りますから
勤めて公平なる見聞を本欄
に御照會して置くに過ぎま
せん

▲月八日朝 湯本より平行
の自動車が小島の某下宿
屋から正服で御乗車の〇
〇のクレーン、一生一代
の色男でしたよ、仲家福
益姐さんも御出世ですよ
天下の〇〇裙と御同伴で
はね、ねでせうか

▲去る日發行したある日新
聞の掲載で申譯ありませ
んが一寸と御照會を

▲例の夏子であつた、春子
則ち本名佐野松代君も多
年の宿望が達して落選町
議で、ある定評のある二
本〇のターサンに落籍さ
れ、見越の松に黒舟板扉
の猫一匹と思ひしに、豈
に圖らんや、御料理業春
の家の女將と成るとの由
頗るの御目出調御尊で御
座る、御祝詞を申上げて置
ます、夫れ鼻下長諸君に
懸賞問題を提出致します

△金に成つて居ります△湖月の小南、ナゼ大阪へ
と親父怒りて曰くの大悲
喜劇を演せしと、呼鳴水
草商賣の藝者よ安月給取
り△へ〇〇に惚れ勿れ
だ、此の醜體は何ぞ
△廿四日の深更 東北南北
の分岐點に停止して大聲
叱たして俺は局長代理
だと新聞屋の馬鹿野郎な
ど糞威張したのは誰かア
レでも新田町をウロツイ
でモデレ氣か首でも洗つ
て御待ちなさいと谷口の
喜多子は云つてら

△湖月の小南、ナゼ大阪へ
彼のスーサン御同伴はせ
ぬかね公園の〇〇邊りが
身分相應と申すのかスー
サンも澤山の土産を持つ
て來たらアテにせず
△三丁目の〇〇の次男坊よ
新田町でホーキを可成り
遊ばしてそれでも御不足
一本卅五錢の高萩迄遠征
してホーキとはね高萩の
勝利姐さんが悲觀と口惜
がつて居たよホーキとは
知らんなんでれしたと

石城郡平町四丁目八番地 萬屋貨物自動車運輸部

果實問屋營業人萬屋
電話二七三番

銘酒 福美

醸造元石城郡内郷村
四家又一

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目

磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵 釜屋商店
金物問屋

電話 九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は〇の生命なり